

## ごあいさつ

第40回山崎賞授賞式を開催するに当たり、御尽力いただきました皆様に、まずもって感謝申し上げます。また、本年1月1日の能登半島地震で被災された皆様に、この場をお借りして、お悔やみとお見舞いを申し上げます。

本年度は、県下の小学校、中学校及び高等学校から171件の応募をいただきました。選考委員会での厳正な審査の結果、児童・生徒の部59件、教員の部8件の合わせて67件を顕彰することとしました。これらの研究は、探究への熱い思いと日々のたゆまぬ努力の積み重ねにより成果をまとめられており、更に今後の発展が大いに期待されるものでした。なお、本年度から、特に優れている研究に対して、最優秀賞・優秀賞を贈ることとしました。優良賞を含め受賞された皆様に、心よりお祝いを申し上げます。おめでとうございます。

本振興会は、未来を担う青少年の「科学の芽」を育てることを目的として、昭和58年に山崎貞一氏によって設立され、以来、自然科学分野の研究への助成事業、研究成果への顕彰事業及び科学教室、講師派遣、研修会支援などの啓発事業の3つを柱として実施してまいりましたが、本年度、創立40周年を迎えることができました。これもひとえに皆様の御理解と御協力のおかげであり、感謝申し上げる次第です。

本日は授賞式に続き、創立40周年記念事業として、静岡大学杉田篤史教授による講演会を開催いたします。講師の杉田先生は、中学3年生と高校2年生の時に山崎賞を受賞されており、これからお聞きする先生のお話は、皆さんの「科学の芽」を更に大きく伸ばしてくれる機会になるものと思っています。

さて、私たち人間は、これまで地球から様々なたくさんの恵みをいただき生存してきました。しかしながら、一方で能登半島地震をはじめ多くの自然災害にも遭遇し、その苦難を乗り越えようとする強い意思と乗り越えてきた歴史も持っています。そして、今、私たち人間の営みが地球に多くの影響も及ぼし、「人新世」と呼ばれるように、その影響が無視できない時代を迎えています。このように、地球が人間へ、人間が地球へという相互のかかわりの中で、人間と地球とが共存していく道を考えていかなければならない難しい時代となっています。

そのためには、あらゆる人間の知恵を総動員して、この難問に向き合っていかなければなりません。皆さんには、これまで培った科学的に探究する力を中心に据えながら、多面的・多角的に、長期的な視点に立って物事・現象をとらえ、人間と地球とが共存していける在り方を問い続けていってほしいと思います。皆さんの今後の活躍に期待しています。

結びに、これまで児童・生徒の研究を熱心に御指導してくださいました先生・保護者の皆様、日ごろから積極的に自然科学教育に取り組んでおられる学校・先生方をはじめ御支援・御協力をいただきました多くの関係者の皆様に、感謝申し上げます。そして、長時間にわたり熱心に選考に当たってくださいました新林選考委員長をはじめ選考委員の方々に、衷心より感謝申し上げ、ごあいさつといたします。

令和6年2月18日

公益財団法人 山崎自然科学教育振興会  
代表理事 安倍 徹